

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

開催日：令和4年11月8日（火） 午後3時～5時 会場：安茂里総合市民センター（安茂里公民館集会室）
地元参加者：66人（男性58人、女性8人）
市側出席者：荻原市長、下平企画政策部長、村上危機管理防災監、中澤保健福祉部長、日台こども未来部長、小池安茂里支所長
井上西部保健センター所長
集約担当：安茂里支所
会議形態：活動発表方式

【活動概要】（発表者）

- 1 園沖支え愛ネットワーク（通称「園ネット」）の活動について
- 2 安茂里こどもコミュニティひろば「あもはぐ」の活動について
- 3 お悩み相談会の活動について

【懇談内容】

[テーマ：住民の支え合いによる笑顔で心豊かに暮らす安茂里のまちづくり]

< 1 園沖支え愛ネットワーク（通称「園ネット」）の活動について >

《発表者：園沖支え愛ネットワーク 事務局局長》

園沖区は、山手の傾斜地に造成された120戸程度の団地で、昭和45年に入居開始となり、人口約300人というこじんまりしたところである。2～3年前は、高齢化率が50%を超える勢いであったが、最近では若い世代が入って来て高齢化率は10%ほど下がってきている。

園ネットができた経緯として、平成25年自治会で実施した困りごとのアンケートでは、雪かき、庭木の手入れ、買い物、通院、ごみ出し、交流の場がほしい等の項目が出てきて、協力できるボランティアを募集したところ、元区長など20数名が名乗りを上げた。区の有志、自治会の役員、民生委員、福祉推進委員、高齢者クラブに呼びかけて進め方を協議し、最初に社協のボランティアセンターの力を借りて「支え合いマップ」を作ろうということになった。作成の段階で区の中においてのお互いの付き合いの度合いがわかってきて、ニーズの把握と担い手の発掘に結びついたと思っており、困りごととあったらいいなあというようなことの把握ができ、住民でその共有ができたことが、支え合いの必要性と次のステップに進める土台となった。

そこで平成26年10月、園沖支え合いネットワークの企画づくりをして組織を立ち上げた。基本的な考え方は、無理をせず、できる人ができるときに、できることをやっということうことで、園ネットのモットーとしている。運営費用は、会員からの賛助会費で1人1,000円ずつ集めスタートし、現在は区からの助成金で運営している。住民から立ち上がったボランティア組織のため、みんなが主役になれ、枠にはまらず、みんなが決めたことは何でもできることになっている。

園ネットの活動内容を紹介するが、アンケートから見えてきた課題を解決するため、各担当別の組織を作り、現役を退いた前期高齢者を中心に立ち上げ、また現役の40代から70代の園沖勢年団にも協力を依頼し、園ネットの役員メンバーも入って活躍をしている。

組織として隊をつくり、送迎隊は通院、買い物の送迎、草刈り隊は庭の草刈り、剪定のお手伝い、ごみ出し隊は、園沖は階段が非常に多く、階段をご利用するのに大変苦労されているため、近所でゴミ出しを手伝い、どうしてもというところは、ごみ出し隊が行って、お手伝いするという事になっている。雪かき隊は、勢年団が中心になって公共の場とか、スクールゾーン、独居のお宅、高齢者のところ行って雪かきをする。よって隊は、町の縁側として、サークル活動を行っている。防災隊は、防災部と勢年団を中心に勉強会を実施しており、花桃隊というのは、地主の了解をいただいて、花桃を30本植え、それを管理する花桃隊というのができた。以上各責任者として隊長を決めて実施しているが、各々運営は隊長の判断で実施、最後は利用者さんとの話し合いで決め、基本的には全て無償ボランティアで行っている。

園ネットの組織は、役員11人にて運営をしており、会長、事務局、広報、会計、各隊長、ブロック、連絡員で会員が兼務するところもある。

園ネットは、今ある園沖の組織の隙間を埋め、連携を強めるということにしており、自治会の役員が毎年変わってしまうため、これを継続的に続ける意味で、園ネットが役割を補完するものになっている。

住民ニーズの引き出しは、必要とされていることを聞き出す。自治会、公民館等の各種団体と連携をとり情報をもらう。各種団体等の情報を集め、孤立する人をなくすように心がけている。

次世代の連携としては、勢年団がボランティア活動に参加し、防災の中心メンバーとして定期的な勉強会、地域の行事や雪片付け、公園の草刈等の力仕事すべてに協力していただいている、現役世代が地元を向けてもらうことに勢年団活動が大変役立っている。

「支えあいマップ」の作製を通じて自治会と協力し、継続的な取り組みを実施しており、近所の声掛けリスト「災害時避難行動見守りシート」を作った。誰でもいつでも立ち寄って話し合える場所ができれば、介護予防、日常生活支援、子育て支援にも繋がっていくものと思いき、公会堂の前に長椅子、テーブルを置き、待愛所をつくってまちの縁側にした。

これからは勢年団の中心的世代が、園ネットを続けてくれるものと期待している。

活動が継続するための課題としては、災害などいざという時にどんな行動をとるかということで、自治会防災部と合同で園沖タイムラインを作成したところ、新たな課題が見えてきた。高齢、幼児の避難場所の確保や、一時避難場所としてホテルを活用するためのホテル業界への働きかけが課題となっている。自治会、民生委員の情報を災害時に活用できるような仕組みづくりが必要であると思っている。災害時に住民と災害対策本部との迅速な連絡方法の検討が必要と思っており、スマホの「オクレンジャー」というシステムを研究中である。

子育て世代への支援として、小さい子の近くに頼れる人が欲しいと思う。子どもの状態を気にかける近所付き合いが必要と思っている。小さな子どもたち、未就学児童の家庭の横の連絡がなかなか難しいということを感じており、これもこれからの課題になると思う。

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

結論として、すべての人が支えられる支える人である。支え合いの原動力は、支える人と支えられる人が顔見知りであることが一番大事で、楽しみながら活動することが大切だと思う。感謝の気持ちが自然と湧き上がる関係づくりを進め、ありがとう、嬉しいが活動の源である。支え合いのボランティア活動は、お互い顔がわかる程度の規模は、私のように小さい区であると割合に進みやすいと特に感じている。

《質問》

自治会の中に区長、防災指導員が中心となって自主防災会という組織を作られていると思う。そこが中心となって、住民をどう安全に助けるかその辺を苦勞していると思うが、あえて園ネットがその取り組みをやるようとしているのはどういうわけか。また園ネットの役員の中にも、自治会の役員と兼ねている人がいると思うが、自治会との兼ね合いはどうやられているのか。

《回答（事務局長）》

園ネットはボランティア組織であるが、防災の取り組みを早くからやってきて、勢年部は防災の勉強をして園ネットの役員に入っている。自治会の役員は毎年で変わってしまう。そこを繋いでいくために私どもの役員が隙間を埋めていくというような状況で今やっている。「園沖タイムライン」を作り、この管理について自治会と園ネットがお互いの情報を持ち寄り、継続的な管理をするという話し合いをし、とにかく迅速に災害の時に判断しなきゃいけない、それを判断する材料はお互いに持ち寄ると早い。それからタイムラインを作ったことは、土砂災害の場合、いきなりレベル4が出てくるので、我々も、早く行動を起こさなきゃいけないということである。

それと一時避難場所として、高齢者をホテルへ避難させるのが一番安全と思いついて検討しているところである。資料の地図をみると園沖は避難場所がない。ではどこかということ、体育館。移動する時に非常に困るもので、早めにとになると、やはりホテルという感じもしている。イエローゾーンの真ん中にホワイトゾーンがあるが、最終的になればもうこの辺に移動してもらおうということも検討しているところである。

そのようなことで自治会と園ネットは一体的に行動をしていかなければいけないだろうということで、いろいろ検討しているところである

《質問》

今日のテーマを地で行く活動というような気がして、本当に素晴らしいと思う。

勢年団という方たちが大分活躍されているという話を聞いたが、子育て世代の支援が課題ということで、勢年団には、子育て世代の方も入っているのか。また、子育て支援について今後の活動や考え方についてお聞かせいただきたい。

《回答（事務局長）》

勢年団員の子どもはほとんど大きく成長している。未就学児が問題となっていて、新しく区に入ってこられたので、なかなか横の連絡がつきにくい部分があり、幼稚園も入っていないし、学校、PTAとか育成会とかそういうものがないという状況で、未就学児にいかにも早く手をのばすか、救ってあげられるようにするか。積極的にこっちへ行ってくれというようなことができればいいなと思って、事務局の中でも、苦勞しているところである。

作成した「支え合いマップ」をみていただくと、赤が高齢者で、青が幼児宅、それから黄色が独居の高齢者の1人暮らしで、問題は青いところで、若い人は困っていてもヘルプの手を挙げない。挙げないのか、挙げにくいのか問題があるが、園沖にきて年数が少ないということとか、顔を合わせる機会が少ない。それから年配者との年齢差が出ていてなかなか積極的に声かけにくいのかもしれない。コミュニケーションする機会がない。組織も横のつながりができていないという部分があり、焼き芋大会をするなど食べることをからめて、交流を図っていったらいいのかなということで検討しているところである。

《市長》

まさに住民自治のお手本のような活動をお聞かせいただいた。園沖区以外の地域の方が「園ネット」のメンバーになっているのか、あるいはこの活動に参加をしてくることもあるのか。昨日、ある地域のはつらつ体操に招かれ、ほとんど女性の方ばかりで、男性がなかなか出てこない。資料の写真を拝見すると、随所に男性の方がたくさんおられるが、男性も地域のこういう活動に出てくれるような、男性が出て来やすい何か仕掛けみたいなものがあるのかどうか、帰りがけに聞かせていただければと思う。

< 2 安茂里子どもコミュニティひろば「あもはぐ」の活動について >

《発表者：「あもはぐ」代表》

「あもはぐ」は、安茂里公民館で週1回、第2・第4土曜日の午前中に活動している。コロナ禍の今、全国一斉休校から始まった世の中の混乱、子育て世代が非常に困惑し、子どもの健康安全を守りたい、しかし生活のために仕事を休むわけにはいかない。長時間自宅過ごす子どもたち、親子ともに不安を抱えながら、学校再開を待ち望んでいた。

市内の他の地域では、子ども食堂の方が支援活動されていて、お弁当の配布や困りごとの相談など内容は様々で、私たち子育て世代は非常に助かったと思う。しかし、安茂里地区には子ども食堂というものが当時なく、なければつくりたいと2020年9月に活動を始めた。

現在、月2回、みんなで工作などをして楽しんでいて、去年からは「あもはぐファーム」と題し、鬼無里地区で自ら作った野菜を提供し、今年は芋井地区でもスタートして、市内中山間地域の課題解決に向けた取り組みも始めている。

普段、LINEを使って開催情報を知らせているが、感染拡大で公民館が使用不可能のときは、希望者に配布の情報を流し提供することができた。また、万が一の災害時に、炊き出しや支援物資の配布等の情報提供にも利用することを考えている。

長引くコロナ禍の今、学級・学年閉鎖が頻繁にあり、それもあってか全国的に不登校の児童・生徒数が急増している。学習面で不安を抱える子どもも多く、様々な体験活動も不足している。学校という枠にとらわれず、地域で子どもたちの成長を見守りたいと思う。

「あもはぐ」では、誰でも来たいときに、ふらっと立ち寄れる場所を目指して、現在は親子のみならず、地域のボランティアがお年寄りの方との交流する機会が増えてきた。安茂里地区以外の親子も多く来場され、長野市外からも遊びに来てくださる方もいる。こんなに元気な安茂里を知ってもらい、今日は楽しかったと言っていただけるような取り組みを今後も続けていきたいと思う。

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

《意見》

まだ住民の中には、「あもはぐ」の活動を知らないという人もいると思うので、もっとこの情報発信をする機会を多くして、例えば、市の広報と一緒に回覧を回すとか、もっとみんなに知っていただいて、そうなれば物資や食糧とかの提供の呼びかけにも使えると思うので、ぜひそういう形でやっていただけたらと思う。ぜひ続けてやっていただきたいと思う。

《質問》

安茂里小学校の運営委員をしており、学習支援のために行ったりしているが、小学校の方にストレートに案内すると、かなり利用者が増えると思う。そうなると、人数的な部分で困るようなことはあるか。案内いただければ、すぐに学校はしたいとなるのではないかと思うが、そうなった場合、かなりの要望が出ると思う。受け入れられないことがあるのかと思うが、そういうこともあって学校には直接案内していないのか、その辺をお聞きしたい。

《回答（「あもはぐ」代表）》

「あもはぐ」発足時に、小学校3校と中学校の全児童・生徒にチラシを一度配布させていただいた。中学生の来場者はあまりいないが、小学生の子は、夏休みとか長期休みになると遊びに来てくれる。今はどちらかということ、保育園に幼稚園、未満児の親子が来ているが、例えば宿題支援とか地域で子どものバックアップみたいな感じで、ボランティアが増えるほど、活動の幅と来場者の世代が広がっていくと思うので、ぜひ地域住民の方にご協力をお願いしたい。

《意見》

学習支援は非常にニーズがあって、学校も地域と連携できないかということを探しているところで、お互いの求めているものが共有できるのであれば、お互いにボランティアで積極的やっていただけの方と、逆にボランティア求めている方のマッチングというか話し合う場というか、そのようなことができるのであれば是非と思ったので、その辺のお話をさせていただければと思う。

《意見》

先ほどの発表の中にも、小さい子どもがいる家庭が地域から見えてこないという課題があって、食べることを通じて集めることをやりたいが、今はコロナでなかなかできないということと、ここの場所が食事の提供とか食事を作ったりすることができない。このことをどのように考えているか教えて欲しい。

また、スタッフが足りないという話があるが、今日はいい機会なので、区長もいるので全部地元で1人集めていただくと18人なる。多分やりたいと思っている人はいると思う。学校が4つあり、全部作るのが無理にしても、ぜひ小市に作っていただければと思うけれども、区長さんたちにぜひご協力お願いしたい。

《回答（「あもはぐ」代表）》

立ち上げの時、市立安茂里公民館は飲食できないので、食事もテイクアウト。もともとコロナ禍前からそういう対応で、地区の公民館でやったらいいのではないかという話も出たが、来られる人が限られてしまい、駐車場の面や、小さい子どもの手を引っ張って徒歩圏で来るっていうのは、子育て世代のお母さんたちが負担を感じてしまうこともあって、今は車で来れるこちらを借りている。それぞれの小さい地区の中で、月に1回でも、こども食堂みたいなものを作っていただけたら多世代交流の幅がどんどん広がっていくのではないかと考えている。

《意見》

未来を担う子どもたちの育成、交流ということが非常に大事なことで、地域においての学校以外の取り組みということで、私はキッズながのグリーン応援クラブを運営しており、生ごみを堆肥化してそれで野菜を作っている。

今まで川中島や町中、あちこちのこども食堂に無償で提供しており、子どもの交流ないし環境学習の場合もあるので、農場へ来て、収穫などの体験をしていただきながら、それを持って帰ってもらうような形で提供したいと思う。

《回答（「あもはぐ」代表）》

ぜひ、また春夏の野菜のシーズンにお世話になりたいと思う。

《意見》

こども食堂というキーワードがあるが、日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあるということも聞いている。そのような中で、NPO法人ホットライン信州を通じて何ができないかということで、私も民間企業の一人として飲料自販機を使ったこども食堂への後方支援ということを考えて、飲料メーカー（ペンダー）から提案があった、販売手数料の8%のうちの1%を設置した企業として募金し、ペンダーの方も1%を募金するもので、会社の社員としても社会貢献の意識を高めるとことができ、やってよかったという思いで今振り返っている。

そういう中で、今一番感じるのは、賞味期限とか消費期限というものがあり、スーパーに行くと一番新しいものを手にとる。この行動姿勢、購買姿勢を正しく変えていくということが、こども食堂への支援にも繋がるのではないかなと思っている。やはり1人の百歩よりも百人、千人の一步ということが、一つのことを成し遂げるといっていいのではないかと感じている。

加えて言えば、飽食の時代で、非常に物が足りており、一人ひとりが足るを知ることが必要ではないか。最澄法師の教えの中にもあるが、一人ひとりが他利他欲を捨てて、忘己利他という言葉の、己よりも、他人のために尽くすというような、そういう思いを一人ひとりが皆さん持てれば、非常に有意義な形ができるのではないかと思感じた次第である。これからも頑張っていただきたい。

《意見》

白石さんが現在抱えている問題は、資料の内容から4つあると思われるが、中期的にはこの中でまず何が一番重要なのか。それがどのぐらいの規模で、どんなふうにも構想を描いているのか。やはり大きくなればなるほど金銭的にも大変になるし、その辺をもう少しわかれば発言をお願いしたい。今日は18区の方と関連の団体の皆さんがいるので、力強く支援ができると思い聞いてみた。

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

《回答（「あもはぐ」代表）》

「あもはぐ」をほぼ家族運営で2年間やってきて、地域の方が4～5名入れ替りで助けていただいているけれども、1家庭でやることにはかなり限られたものがあり、考え方に偏ることも出てきてしまうので、いろいろな地区のいろいろな方のやり方で、みんなと交流ができたらいいかかなと思う。食事であったり、勉強であったり、一緒に遊んであげるような、なんでもいいと思うけれども、お年寄りも子どもも、子育て世代の親も元気に笑顔になれば一番いいかなと思う。

《意見》

話を聞いているとやはりスタッフの数が足りない、あるいは金銭的にも大変だということである。市の方で補助金とは言わないが、お知恵があれば拝借したいところであるがどうか。

《回答》

「あもはぐ」を、ご家族を中心にしてボランティア活動として行っていることに感謝申し上げます。いろいろな世代の方々の交流につながっているとのことで、そのような活動はなかなか広がっていかないが、少しずつでも広がっていることに、大変先駆的な活動というのを感じている。

人の不足ということは、これから活動をしていく中で、大きな課題と市も認識している。

まず食育に結びつけられないということで、安茂里公民館には調理室がなく、保健センターのものを使うとすれば、調理して食べるということだけではなく、子どもと高齢者が一緒になってそのような活動ができればということと、地域公民館でも食事を作ったりすることができると思うので、行政連絡区18区でどういう形でできるか、まず皆さんと「あもはぐ」が中心となってお話をさせていただけるといいのかなということである。

県社協の補助金を使ったりしているところとやられていると思うが、長野市では、こども食堂単独での補助金は現状ではないが、複数の交流事業や相談事業を行っている団体に対しての補助金を今年度から創設したところである。今後の展開では、「あもはぐ」も補助金を使えるような活動になっていく可能性はあると思っている。

私どもで調べたところでは、民間企業ではキューピー未来卵財団とカゴメ未来野菜財団がこども食堂への支援ということを全国的に行っている。そのようなものに応募していくことや、住民自治協議会からの支援や支所発地域力向上支援金事業といったものもいろいろ含めて、安茂里支所、住民自治事協議会と今後ご協議いただくのがいいのでは感じている。

側面的な支援にはなるが、今後とも活動を支援していきたいと思うので、いろいろとお問い合わせいただければと思う。

【日台こども未来部長】

《市長》

居場所づくりというと、どうしても子どもというイメージになりがちだが、これからの高齢化社会を踏まえて考えると、誰にとっても居場所というものが、これからの社会の中でとても大切になっていると思う。こども食堂についての支援のあり方は、いろいろ研究させていただきたいと思っており、できる限りの情報提供申し上げたいと思っている。

地域みんなが一緒になって、こどもを支えていける社会づくりがとても大事であることを改めて認識させていただいた。

< 3 お悩み相談会の活動について >

《発表者：教育文化部長》

未来トークを迎えるに当たり、カウンセラーの先生方から言葉をいただいている。「私たちカウンセラーにあなたの悩み、何でも話してみませんか、あなたの大切な悩み、こころのサポートいたします。皆様のお悩みを話せる場、自分を変えるための考えを聞いていただける場にできれば幸いです。お気軽にお立ち寄りください。」とのことである。

始めたきっかけは、子どもが登校拒否になっていたとき、市の教育委員会のスクールカウンセリングを受けて、子どもが元気に学校に通えるようになった役員の話聞いて、そのような経験をされる方も安茂里にもいっぱいいるのではないかと思い、安茂里の中でこのような活動ができればと思って始めた。

安茂里地区住民自治協議会は、このような新しい事業にどんどん取り組んでいく土壌があるので、教育文化部会の中でもいくつか新しい事業を行っている。

開始時期 2020年7月25日、毎週第3土曜日、1名の先生によるカウンセリングを行っている。1人90分で、予約方法は、全員電話にて予約し、これが一番この活動の肝になっていて、相談したことを回りに知られたくない人が多いので、安茂里公民館の主事を中心にしっかり厳格に守秘義務を守って受付をしている。

カウンセラーは、NPO日本精神療法学会所属の三名の先生に行っている。訪問者数を資料にまとめてあり、相談内容は基本的に表に出てくるものではなく概略である。実施結果として最後につけてあるアンケート見ていただくとわかるが、利用者の皆さんに許可をいただいて、出してもいいというものを資料に書いてある。年齢や性別はわからないようになっているが、大体がやってよかったというものだと思う。

今後の課題は、土曜日だけ行っているが、平日にできないかということ、地区回覧で募集を行っているが、なかなか周知できないこともあって、これをどう守秘義務を守りながら、周知をしていくかということである。

カウンセリングというのは何か指導するとか、そういうのではなくて、抱えている悩みをしっかりと聞いて、相談者を軽くすることだということをカウンセラーの先生がいつも言っている。本当に地道な戦いで、地味な活動だが、今後も継続できればと思っている。

《質問》

この相談は一応安茂里地区になっているけれども、地区外から来られることもあるのか。

《回答（部会長）》

安茂里地区内の回覧で周知しているので、安茂里地区の方が多いと思うが、中には地区以外から来ている方もいるように見受けられる。

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

《意見》

土曜日以外にもという話が今あった。来ていただいている先生方は皆スクールカウンセラーであるので、学校へ加配という形に入っているはずである。カウンセラーの先生は皆2校掛け持ちであり、かなり非常に苦しい。その中で、安茂里地区の方でご指導していただいているところであるが、実際にどこに問題があるのかということ、ボトルネックが何かということをも明確にしなければいけないと思う。

例えば公民館と教育文化部会ですり合わせをして、カウンセラーの先生を交えながら何が一番いいのか。例えば、第1、第3でもいいし、第2、第4でもいいし、月2回ぐらいのペースでやるのが一番いいかなというふうに思っているけれども、できるだけ早めにニーズにこたえることが一番大切だから、その辺を考えていただければと思う。

カウンセラーの先生をお願いしたいのが、クライアントの方でもいろいろな悩みがあるけれども、例えば、他の機関にカウンセラーの先生方の方から勧める、専門機関があるのでそちらの方へ声掛けをしていただきたいと思います。

それから行きたいけど行けないということもあるが、地域から発信することもできるだけ考えていく、発信しているものを利用しながら、市も広報ながのの中で悩み相談という素晴らしいものを紹介していただくことも大切かと思う。そうすることによって知らない方もわかる。そうすればやっぱり行ってみたいという気持ちになるので、できるだけ内向きじゃなくて外に向かって活動していくことが大切だと思うので頑張っていただければと思う。

《回答（部会長）》

カウンセラーの先生たちは基本的にスクールカウンセラーではあるが、カウンセラーの資格を持って学校の中に入ったりしている中で来ていただいているので、夕方来てもらうことは可能だと思う。

表に向かっての発信はこちらでも考えていきたいと思う。

《質問》

安茂里以外の地区でもこのような活動というのはされているのか。

それとプライバシーの問題があり、非常にお聞きしにくいけれど、学校の問題、職場の問題、家庭の問題、人間関係という様にキーワードがあるが、特に差し支えない範囲でどういった問題、傾向があるのかお聞かせいただきたい。

あと開催日が土曜日ということで限られているが、今の時代SNSというのがあるのでそのようなことが利用できるのか。

男性の相談者もいるのかお聞かせいただきたい。

《回答（部会長）》

長野市の中では、地区をベースとした活動は安茂里だけだと思う。

内容については、本当に微妙な問題で、話していることはカウンセラーの先生しかわからないようになっている。

SNSは検討していきたいと思う。今もカウンセリングが終わったあと、あとまだまだ悩みがある場合は、先生に個人で相談する方も多々いることは聞いている。

《質問》

電話をするのは敷居が高い、電話をしづらいという方がいるのかなと思う。こんなこと聞いていいのだろうかと思って電話をしづらいと思っている方もいるような感じがするが、そういった点に対して、回覧の下にQRコードを付けて、こんなような相談があるということを書いていただくと、そんなことであれば自分も電話してみようかと電話しやすくなるのかなと思うがどうか。

《回答（部会長）》

悩みというのは、個人で大小悩みがあると思う。その人にとっては生き死に決するというような悩みもあるので難しい。

何か話したい時とか何か聞いてもらいたい時とかの感覚で来ていただければいいのかなと思う。こんなこと言っただけいけないというのは一つもない。

また、行こうと決めて当日になってやはり違くと、繰り返し2度3度電話をされる方もいる。気長にひとつひとつ丁寧にお付き合いできればと思っている。

《回答（公民館主事）》

私が中心で電話を受けているが、電話でこういう問題で相談を受けたいという人も少しいて、家族の問題だとか話される方はいる。何回か来られる方は、丁寧に相談対応いただいてありがとうございますと言って応募される方も結構いる。

《回答》

コロナ禍においてこのような事業が高まっている中で、きめ細かにされていることに感謝申し上げる。

広報誌に掲載できないかという話は、広報誌も行政情報だけでかなりの量があり、いろいろな活動されている方から申し入れがあるが、優先順位をつけて記載をさせていただいている中で、実際にはなかなか掲載スペースが取れないところがある。

行政でも、もんぜんぶら座などで相談事業をやっており、連携していければと思っている。特に緊急性の高い、人の生命、財産やDVとか虐待といった相談内容があったら、ぜひ市の方とも連携させていただいて、早急な解決ができるようお願いしたい。

〔下平企画政策部長〕

《市長》

市としてできることやれることは、今部長から話があったとおりである。例えばお子さんの教育関係などの相談などがあれば、市役所に子ども総合支援センター「あのえっと」を設置したので、ご紹介をいただければありがたいと思う。

アンケート調査を拝見させていただき、お話を聞いていただいて本当によかったということが書かれていて、私自身、市政運営を進めていく上で、市民の皆さん声にしっかり耳を傾けていく、皆さんの声を受けとめることの大切さを実感させていただいた。

令和4年度「ながの未来トーク」集約表

【その他】

《市長総括》

今日は三つの活動発表していただいた。本日いただいた発表、あるいは視点を、私としても、これからの市政運営に取り入れさせていただきたいと思う。そして今日つくづく実感させていただいたのが、それぞれ皆さまが発表されて、そのあと、いろいろな方々のご発言をされている姿に、本当に心から感動させていただいた。皆さまのご発言というものは、まさに先ほど会長がおっしゃったような、家族的な社会をつくるという上で自分も協力をするという表現でもあると受けとめさせていただいた。これだけ地域の皆さんが積極的にこの地域に協力したいという、そういう思いの方がたくさんこの会場に溢れていて、非常に胸に差し迫るような、そんな思いを感じさせていただいた。

私も、今日いただいたご意見を、しっかり行政として受けとめさせていただきたいと思っている。本日、市会議員の布目議員も参加をいただいております、また議員の立場からもいろいろご指導を賜るようお願いを申し上げます。